

協議会だより

NO.57 (2014.1)

山口県農地・水・環境保全向上対策協議会

中国四国農政局長最優秀賞3年連続 山口県が受賞！

平成25年度農地・水保全管理支払交付金中国四国農政局長最優秀賞

福の里農地守り隊（阿武町福田上）

このたび、福の里農地守り隊（阿武町）が「平成25年度農地・水保全管理支払交付金中国四国農政局長最優秀賞」を受賞されました。山口県は、平成23年度河原地域資源保全会（長門市）、平成24年度平沼田地域の環境を守る会（山陽小野田市）に続き、3年連続の受賞となりました。

表彰式は、平成26年1月23日（木）岡山市の中国四国農政局において、田野井中国四国農政局長より福の里農地守り隊の市河憲良代表（農事組合法人福の里 代表理事）に表彰状が贈呈されました。平成25年度の最優秀賞のテーマは、**地域主体となって持続可能な地域づくりを目指す活動組織**と定められていました。当活動組織は、①耕作放棄地を約3ヘクタール解消して、水稻や自然薯（じねんじょ）、蒟蒻芋（こんにゃくいも）を作付けして再生田として蘇らせたこと②容赦なく里山に迫ってきた竹を伐採して、この間伐竹を排水対策に再利用したこと③地域の拠点づくりとして、「直売所」を設置して販売・流通を確立させ営農意欲の向上を図ったことなどが、高く評価されるところです。



「福の里農地守り隊」の概要について

地域が主体となって！ ALL 福の里！

- ・取組活動： ■共同活動 ■向上活動
- ・協定農用地： 田 126.0ha
- ・資源量： 開水路 30.9km パイプライン 0.6km
農道 18.5km ため池 6 か所
- ・集落数： 6 集落
- ・農家戸数： 97 戸（うち専業農家 60 戸）



山口県阿武町福田地域は、標高約 400mに位置する。ここは、山間に広がる盆地。農地は、いわゆる中山間地がほとんどで、条件がいいとは言い難い。しかしながら、肥沃な土壌と地域のシンボルでもある伊良尾(イラオ)山から湧きでる伏流水を水源としているため良質の米が収穫できる里である。

また、この地域内には、平成 22 年に農林水産省の全国ため池百選に認定された「長沢ため池」が潤沢な水をたたえ、この一帯の農地を潤している。このため池には、絶滅危惧種の淡水産貝であるフネドブガイと同じく絶滅危惧種の白根を食草とする昆虫であるオオルリハムシが生息する。また、全国でも唯一ここだけというヘルシーな赤身肉が特徴である無角和牛が飼育されている。

この農村の豊かな自然環境や田園景観は、農家だけのものではなく地域全体の貴重な資源である。そして、農地等を主とする資源は、食糧生産の場であることは言うまでもないが、洪水防止や地下水の涵養、水質の浄化など様々な多面的機能を果たしている。かつて、これらの資源は集落全体の共同作業により、おのずと守られてきた。

このかけがえのない資源を守るため農家・非農家の垣根を越えて、女性はもちろんのこと、子供からお年寄りまで、地域主体による持続可能な地域づくりを目指すために平成 19 年度から「農事組合法人福の里」が中心となり、『福の里農地守り隊』を設立して地域の保全活動に取り組んでいる。

昭和 44 年に、山口県内において、最も早く県営ほ場整備に着手した福の里地域は、大型機械の導入で農作業の効率が飛躍的に改善された。しかし、整備後約 40 年が経過し、水路などの老朽化が進み、作付けに支障をきたす状況となっていた。そこで、地域の共有財産である農業用水路や農道等の維持管理を地域ぐるみで協働して取り組むこととした。

また、農村環境保全活動では、地元で伝わる「剣豪・佐々木小次郎の墓」周辺の美化活動や地域内の竹林伐採なども行っている。そして、営農において特記すべき事項として、エコ栽培に積極的に取り組んでおり、種籾の温湯消毒や「脱」化学肥料農薬としてミネラル塩の散布による有機 JAS 米を栽培するなど、環境に極めて配慮した農業を展開している。

このように、福の里農地守り隊と農事組合法人福の里は、農道・農業用水路等の維持管理はもちろんのこと、土地改良区、水利組合、自治会、シニア倶楽部等と強固な連携を図り、子供たちから年配者までが参加して自分たちの住んでいるところを再点検し、地域のお宝を記載した地図「**よりみちマップ**」と 10 年後のこの地域の夢を描いた「**夢マップ**」を作成し地域振興と都市住民との交流も深めている。

また、平成 17 年 6 月に農事組合法人「福の里 女性部」を新たに創設して、野菜栽培、もち加工などにも取り組んでいる。法人の最重要施設として建設した直売所と加工施設は、この女性部が中心になって運営している。特に、この「福の里 直売所」は、モノを売る場所だけではなく、地域の賑わいの場でもある。子どもたちの発想やお年寄りの技を駆使したものを活かし、女性のみならず地域の人全員が主役となれる拠点であり、基地である。

過疎化、高齢化により農業の生産現場は、元気を失いかけている農村地域が多い状況ではあるが、「農地・水保全管理対策」「中山間地域等直接支払制度」の施策を活用して、地域が主体となって地域から求められる持続可能な地域づくりを、地域ぐるみで取組むと同時に、「自分たちの地域は、自分たちで守る。」との強い意思をもって、貴重な地域の資源を次世代に伝える努力を懸命にしている。